

とようらのジオパーク ガイドブック



れぶん げ かいがん
礼文華海岸

おおむかし かざん なみ
大昔の火山が波でけずられてできたもの

豊浦町教育委員会

とようら まめちしき 豊浦の豆知識

とようら ちめい
豊浦の地名

とようら
豊浦 むかし、ベンペ村といました。アイヌ語で水の
い み しょうわ ねん とようらむら
意味といわれています。昭和7年に豊浦村にかわり
ました。

おおさし
大岸 オフケシ（オブケシ）が元の名前で槍の先の形の
ことだといわれています。

れぶんげ
礼文華 レプウンケプというアイヌ語が元のよび名で、く
ずれて海へつきでた岬の意味です。西のイコリ岬
のことです。

さいこうほう こんぶだけ
豊浦の最高峰（一番高い山） 昆布岳 1045m

なが めっきべつ
豊浦の川の長さ 貫気別川 32.8km

おふけし
小銚岸川 10.6km

れぶんげ
礼文華川 8.4km

むろらんせん おさわせん かいつう しょうわ ねん
JR室蘭線（むかしは長輪線） 開通 昭和3年（1928年）

こうそくどうろ へいせい
高速道路が豊浦まで開通 平成9年（1997年）

とようらちょうしていかざいざい だい ごう さいしぐいっしき さもけ
豊浦町指定文化財 第1号 アイヌ祭祀具一式（佐茂家）

第2号 カムイチャシ史蹟公園



ジオパークってなに？

「ジオ」とは大地や地球という意味で「パーク」は公園のことです。地面の上から深い地面の下までをふくめ、きれいな景色をながめたり、いろいろな学習ができる特別な地域を「ジオパーク」とよんでいます。

「洞爺湖有珠山ジオパーク」は洞爺湖や有珠山のまわりだけではなく、豊浦や伊達市の大滝、留寿都村の一部までふくんでいます。火山が噴火してできた地形や災害のあと、大むかしの地層や人々が生活したあと（遺跡）、言い伝えが残っている場所などたくさんの見学場所（ジオサイト）があります。



とようら 豊浦のジオパーク資源(みどころ)

豊浦の大地がどのようにしてできたかを知ること
のできる場所や伝説(いいつたえ)のある場所、むかし
の人々が残した道具やお墓のあとが見つかった場所、
美しい景色について書き残した記念碑のある場所、
サケが川を上ってくるようすを観察できる場所など
たくさんあります。自然の豊かな昆布岳やポンベツ
滝のほかにはホタテガイ養殖の記念碑などがあります。
こうした場所がこれからもふえていくことでしょう。



カムイチャシについて

おおきし れぶんげ あいだ ちゃつみさき
大岸と礼文華の間にある茶津岬の上にカムイチャシとよばれているものがあることを知っていますか。アイヌ語で「カムイ」は神様、「チャシ」はとりでの意味です。むかしアイヌの人々が作った「とりで」のあとといわれています。たいへんえらい人が住んでいたという言い伝えがあります。今は史蹟公園となっています。



みさき
あの岬が
カムイチャシなんだ



こぼろどうくつ いわやかんのん 小幌洞窟と岩屋観音

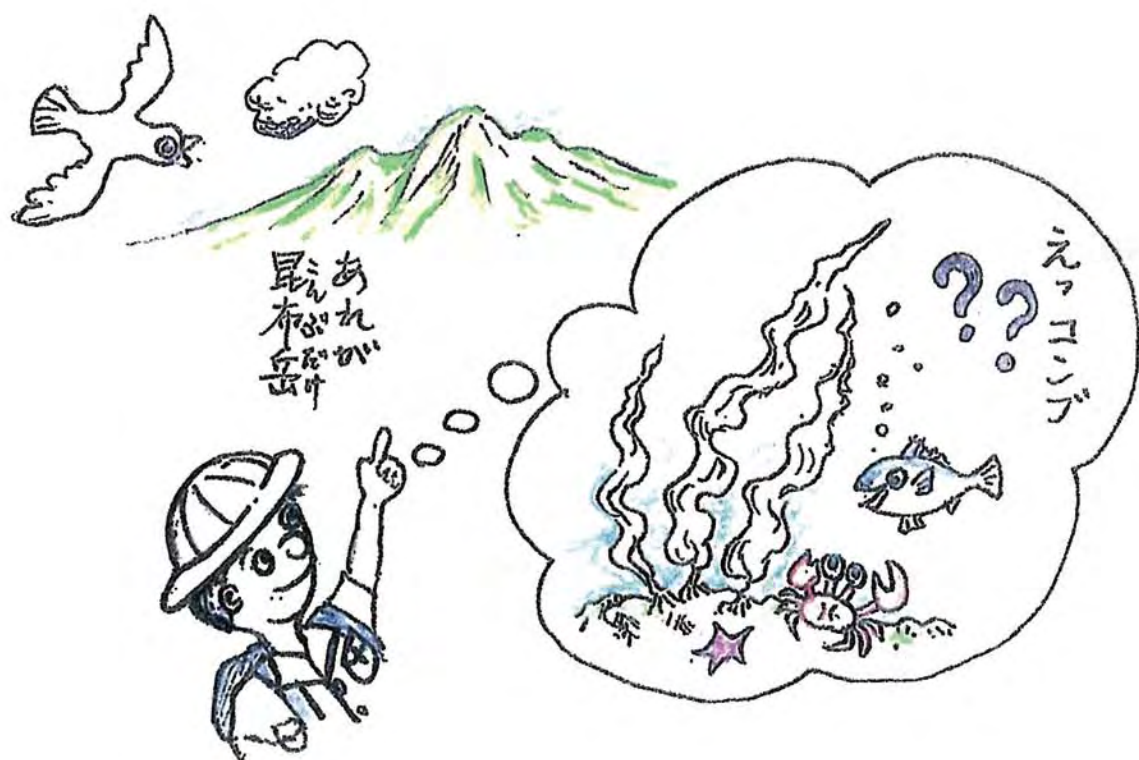
れぶんげ 小幌の西のはしにこぼろというところがあります。高いがけで囲まれた海岸ですが、鉄道の小幌駅でおり、やまみち くだ どうくつ まえ い 山道を下ると洞窟の前まで行くことができます。なんびやくまんねん かいていかざん かざんばい がんせき 何百万年も前に海底火山がふきだした火山灰や岩石がたまってきた地層を、なみ ちそう 波がけずってほらあな つく 洞穴を作ったといわれています。350年ほど前にほんしゅう 本州からやってきたえんくう 円空という人がここで木をけずりぶつぞう 仏像を作りました。



山の名前なのになぜ「昆布」というのかな？

むかし大津波があつて、山のとっぺんまで波が押し寄せました。水が引いた時、とっぺんに昆布がひっかかっていたことから「昆布岳」と呼ぶようになったという伝説があります。ちょっと信じられませんか。

アイヌ語でコンボ・ヌプリ（こぶのように突き出ている・山）ということから名づけられたというのが本当のようです。トコンボ・ヌプリ（意味は同じ）とも呼ばれていたようです。



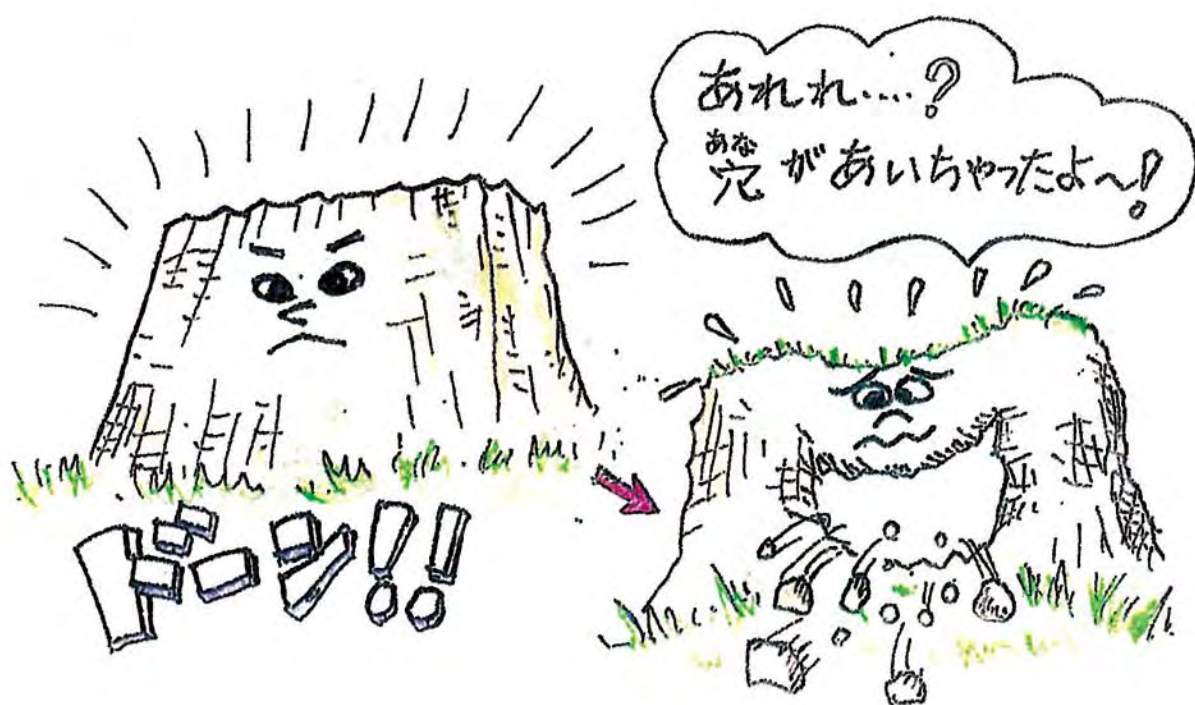
昆布岳はいつごろできたの

豊浦の大地が地上に現れたのは今から500万年以上も前です。大岸や礼文華に火山ができ、溶岩や火山灰をふきだして大きな火山島になりました。その後、本町付近や新山梨付近でも火山活動が始まりました。200万年ぐらい前になると昆布岳が噴火をくりかえし、次第に大きな山になりました。100万年ぐらい前には活動をやめました。今の羊蹄山のような姿になったと思われれます。そして100万年という長い年月の間に雨や川の流れてけずられて現在の姿になりました。



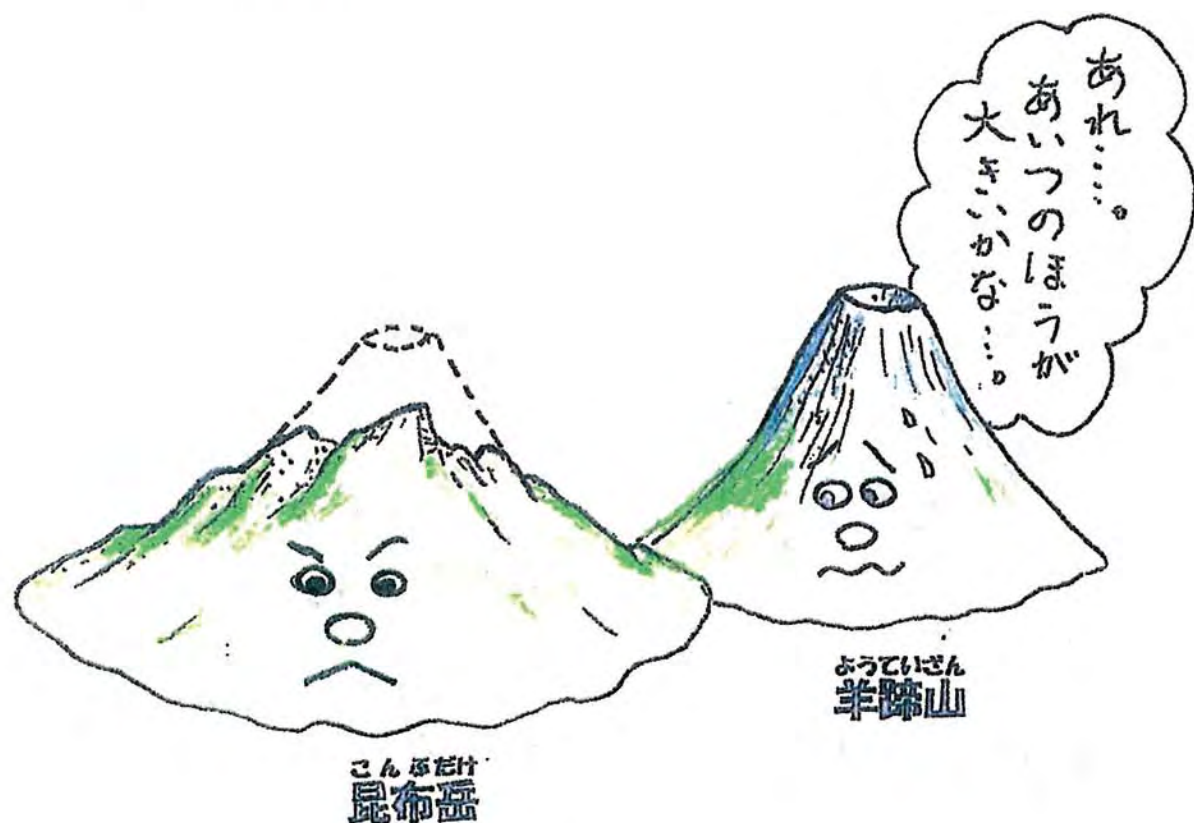
めがね岩はどうしてできたの

昆布岳は何度も噴火をくりかえして成長しましたが、噴火のたびに地下から高温の溶けた岩石（マグマといいます）がおし上がってきました。大地のひび割れのような弱いすきまにそって上がってきました。活動が終わるとすきまに入り込んだ溶岩は次第に冷えて固まりました。これを岩脈といいます。まわりのやわらかい地層が雨などでけずり取られると「岩脈」がかべのように残ることがあります。「めがね岩」はこうしてできかべのような岩のうすい部分がはげ落ちて現在のようになったとされます。



昆布岳は羊蹄山よりも大きい？

大昔の昆布岳は、現在より数百メートル高く、羊蹄山のような姿だったとされます。てっぺんには火口もあったのですが、風雨にけずられ次第に低くなりました。火口もなくなり、山肌には谷が深くきざまれました。しかし、地図などから全体の大きさを想像すると、高さこそ及びませんが羊蹄山をしのぐほどの大きさだったことがわかります。



しんりんこうえん れぶんげさんどう 森林公園と礼文華山道

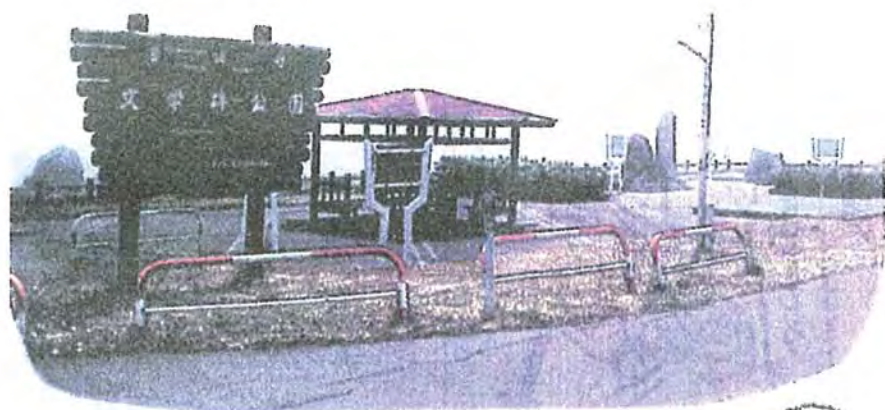
平成^{へいせい}2年(1990年)礼文華^{れぶんげ}の内陸^{ないりく}につく^{つく}こ^{こうえん}う^{えん}で、さまざまな種類^{しゅるい}の木^きや草花^{くさばな}などを観^{かん}察^{さつ}できます。
また水^{みず}遊^{あそ}びやキャンプ^{たの}も楽^{たの}しめ^めます。

公園^{こうえん}の入口^{いりぐち}の手前^{てまえ}の林道^{りんどう}はむかし^{むかし}の礼文華山道^{れぶんげさんどう}につな^{つな}が^がり^りま^ます。長万部^{おしやまんべ}へ行^いくためのけわ^{けわ}しい道^{みち}で、むかし^{むかし}の人々^{ひとびと}の苦^く勞^{ろう}が感^{かん}じ^じられ^れま^ます。峠^{とうげ}から見^みえ^える山々^{やまやま}は^おお^おむ^むかし^{かし}か^かざ^ざん^んの大昔^{だいせき}の火山^{かざん}です。



^び ^{みさき} ^{ぶんがく} ^ひ ^{こうえん} 美の岬と文学碑公園

^{おおきし} ^{れぶんげ} ^{あいだ} ^{かいがん} ^{たか} ^{うみ}
 大岸と礼文華の間にある海岸は高いがけが海に
^{いわやま} ^{うみ}
 せまっており、岩山がいくつも海からつきでるよう
^{なら} ^{れぶんげ} ^{ちか} ^び ^{みさき}
 に並んでいます。礼文華に近いあたりを「美の岬」
^{てつどう} ^{かいつう}
 とよんでいます。鉄道が開通してまもないころ、こ
^{とお} ^{ぶんがく} ^{しや} ^{けしき} ^{かんどう}
 こを通った文学者たちはきれいな景色に感動して
^{さくひん} ^{きねん} ^{しょうわ}
 作品にのこしました。それを記念して昭和62年
 (1987年)に^{つく}作られたのが「^{ぶんがく} ^ひ ^{こうえん}文学碑公園」です。



ふんかわんてんぼうこうえん
噴火湾展望公園とインディアン水車公園

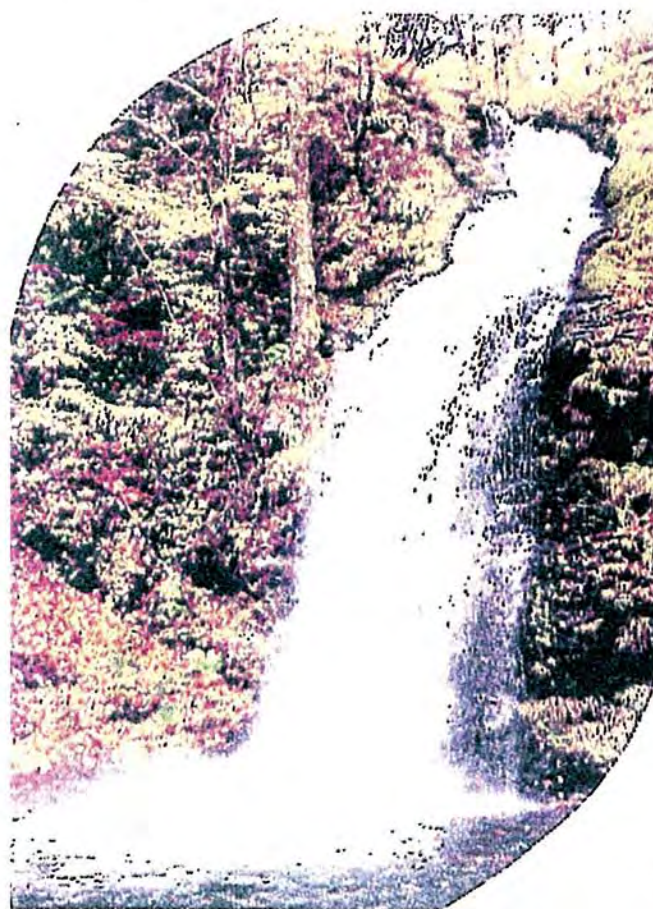
ぬき べつがわ かこう ちか こだか おか うえ えんけい
貫気別川の河口に近い小高い丘の上に円形の
てんぼうだい み ほんちょう まち
展望台が見えます。ここからは本町の町なみや
ふん かわんぜんたい
噴火湾全体をながめることができます。

貫気別川を1.5kmほどさかのぼったあたりにサケをとるための水車すいしゃを利用したしせつりようがあります。ここはインディアン水車公園すいしゃこうえんとなっており、サケがかわかわのぼのぼるようすがみみやすいように大型おおがたの水そうもすいあります。



ポンベツ川とポンベツの滝

こんぶだけ みなみがわ おお さわ なが だ ひがし
 昆布岳の南側にある大きな沢から流れ出し、東
 に向きをかえて貫気別に流れこむ川がポンベツ川
 です。もり なか みず
 森の中をいつもきれいな水が流れています。
 昆布岳のかたい溶岩の下にやわらかい火山灰や泥
 がかたまった地層があるため、水が大地をけずる時
 にだんさができ、滝となります。このあたりにはい
 くつも滝がありますが、もっとも大きいものがポン
 ベツの滝です。



ふんかわん 噴火湾について

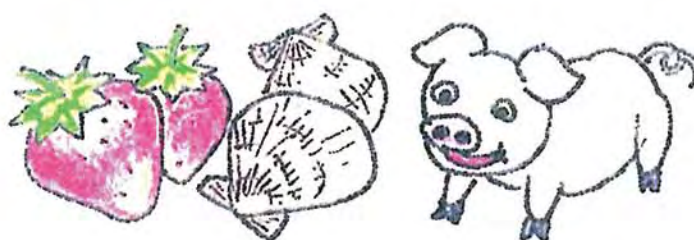
噴火湾のもともとの名前は「内浦」で入江の意味
です。1796年にイギリスの探検船プロビデンス
号がやってきた時、プロトン船長が有珠山や
駒ヶ岳のあるこの入江をボルカノベイ（火山の
入江）と名づけました。それを後で日本語になおし
て「噴火湾」としたのです。洞爺湖のような円い形
をしています、噴火でできたものではありません。





とお 遠くから見た昆布岳

ふる かざん こんぶだけ あたら 古い火山の昆布岳と新しい火山の羊蹄山、その間に広がる台地は
とうや 火山の噴火で出た軽石や火山灰でうめられてできたもの



とようらのジオパーク

ガイドブック

発行 2010年6月

豊浦町教育委員会